

八月十二日附

御手紙拝見 久々御無音、君が今に生きて居るとは夢にだも覚へざる処に御座候

ハワイにて袂を別ちて已に五ヶ年

自後吾は猫額大之沖繩

にて駆け廻まわり何の得る

所なきも沖繩人をして海外

志想に狂奔するに至る迄

發展せしめ、今やハワイ(四千)

メキシコ ペルー、ニューカレドニア

フィリピン、カナダに凡そ五千人

出稼ぎせしめ今や県民は海外

行の外夜も明けざるの有様に

候 然して吾は精神的に

大損失を来せしも物質的に

大成効(五年前より云へば) 吾が一生は

那覇に終るの外道なしと決心し

当地第一等風景好き高寺

と云ふ古寺地を買ひ求め

凡そ四千円位を散らして

殆ど首里城に擬する位の

大家に意気豪然沖繩

を呑むの概を示し居り候

然して尚ほ余ます処一萬円

当地に於ては大概の事業は

成す事を得べく候 随て

社会の信用も今は相応に

有之吾れ乍ら夢かと

思ふのみに有之候

目下事業の設計

移民業は勿論其他の商業

にも設計す可き余地充分

有之候へ共人物なきに苦心

致し居り候、君意あらば速に

帰り見よ 沖繩は七十萬円(政府より)

之那■築港を控へ内務

省より年之五萬円の糖務局

(砂糖の模範製造場) 西原我謝馬

場近所に設けられ居り候

移民事業に対する吾の方針

同業は吾の生命とする処にて

本業に就ては長崎神戸、

横濱の何れか移民の便宜と

時機に応じ其一ヶ所又は三ヶ所

を第二中心点とし沖繩

を第一中心点としアメリカ、

ハワイ、フィリピンか其他時の

趨勢を視て相連絡する

方法を設け沖繩人を移住せん

と決心し神戸にては(目下は同地が

移民の出発隆盛地) 金城時男

(旧千代松、羽地の人) 大に設計せしめ

同地有力なる人々相糾合し

県参事会員堀林ノ助 坪田十郎

弁護士野添華硯、家島忠

亭氏等を利用して殖民

業の機関としては殖民新聞

(吾の資本) を発刊し方法としては

共済組合殖民同志会已に設立

済に相成居り候 然して同志会の

目的は日本全国より出稼移民を会に加

入せしめ海外に於ける尖■(主に不合格)

者を救済するに有之候

右は時男に一任す

吾は沖繩の第一中心点に全力を注ぐ事とし

たり扱て沖繩県に就ては県民の

迷ふ程進み来りしと共に三十八年

より種々の奸人入り来り大に

良民を誘惑し詐取をなす事

極点に達し居り候

其大なるもの移民見世金借用証を種に

百円金の詐取を企てる事

五千人とすれば五十萬円

吾は見るに不忍去る八月より移

民新報なるものを独力にて発刊

し大に弁護を試み居り候

之れを根本として民心を固め可申

候 新聞は久夫方に送附せり見よ

御申越の金融の件沖繩にて

極度の必要で

三十七年に出来居る国頭銀行は小なるを以て

平良保一(頭取支配) 中頭島尻に三郡

とし大銀行設計を三十八年末小生より

説き二(中、島) 賛同し共立銀行

と命名し将にならんとするの際

国頭が二倍の資本と二倍の重役

を出さうとしたる為め遂に議纏ま

らずして島尻全部及中頭の一部

となり実業と云ふ銀行を設計する事

になり国頭全部と中頭の一部

と共立を造る事に目下各々設計

中なり何時に成就するや

大に将来の見物に候

吾は両分してからは何れにも関せず

中立に有之候

右の有様故君考へあらば直に

返れ フィリピンに寄る必要は少しも

無之候

君の帰り■に桑港の沖繩地方人を集め

沖繩に目下起り居る見世金問題

(新聞を見て) を説き本金を詐取せられ

ざる様にするには 沖繩にて久三が

組織し居る 移民協会を盛に

して同機関(移民新聞)にて奸物を

筆誅するにあり然らざれば見世

金の百円(元利共) 其次は契約証

ハワイに三年居て帰る 別国には

行ぬと契約したる別紙の百円

も取られる合計二百円の元利が

詐取せらるるからと説き桑

港支部を設けて大に相声援する

様に説きハワイにて渡されし百円の

預金証を大切に保管し可成

父兄に送り置き父兄へは

久三の協会に加入し詐取せられざる

様にす可しと申越し置く様説明

して帰れ

本金の性質君知るや否や本金

が払ふ可らざるは何人も知る処他県に

於ては斯る事なし然るに沖繩に於

て斯くするのは県人の愚に乗じ

代理人星野茂一 代理人大津民作

代理人古嶋、無職の詐欺師田淵益蔵

右入り来りたるものが詐取を企て

たるに依る八月移新発刊以来

大に驚き田淵は早や逃げた

此新報さへ盛に発刊すれば充分

成効する間違なし

弟又助も十月頃帰島の筈に候

九月十七日

新助君

久三

参考・湧川清栄『当山久三伝 沖繩解放の先

駆者』一九七三年、太平出版社